기세기	牛皮 投業以善推進ノフノ(課題分析と技	(未以普束 <i>)</i>	子校番号 026 大泉中子校
	課題分析	授業改善策	改善状況
	○課題に対し、記述して答えることを	○作文や小論文を書く際に、言い回し	○言い回しを活用しながら作
	苦手とする傾向があるため、語彙力を	を紹介し活用させる。また、五感など	文などを書けるようになって
	高める必要性がある。いつも同じよう	に着目した表現による効果を読解さ	きている。読解に結び付けら
	な語句や言い回しを使って書く生徒が	せ、心情や場面が伝わるような書き方	れるようになるために、多様
	多い。また、語句の意味を理解しない	をさせてみる。意味を確認し、文脈上	な課題を設定していく。
	まま読み進めるため、言葉と言葉のつ	の意図を読み取る授業をする。	
玉	ながりや文脈の把握を苦手とする生徒	辞書やタブレットの活用を図る。	
語	も多い。	NI TOTAL WAR	
ㅁㅁ			
	○課題を解決するための話し合いやコ	○話し合いの型を教え、司会台本を用	○話し合いの進行の型や基本
	ミュニケーションを苦手とする生徒が	意して、話し合いの経験をすることで、	を教えたり、司会を経験させ
	いる。進行の仕方や意見がわからず話	話し合いの流れやゴールを意識させ	たりすることで、話し合いのゴ
	し合えない場面があった。	3.	ールをつかめるようになって
		30	きている。
	○社会的事象に興味・関心をもち、専	 ○基礎的·基本的な知識の定着を図る	○定期考査を利用して基礎知
	門的な用語を覚えようとする意欲はあ	ため、ワークや専門的な用語を覚える	識の定着を図るとともに、小
	るが学習の定着度に個人差がある。	ような繰り返し学習の機会を設定す	武の足骨を図ることでに、小 テストを繰り返し行うなど、反
	るが子自の定有反に個人をかめる。		クストを振り返り100なと、及 復学習を取り入れている。
		న .	後子百を取り入れている。
	○社会的事象について、資料を根拠に	○身近な学習教材を取り入れ課題解	
社	自らの考えを構成し表現する力や、社	決型の授業を構成し、資料を根拠に自	るとともに、ICT 機器を積極
.—	会的事象を空間的な広がりや時間的な		的に取り入れることで、生徒
会	変化、相互の関連性に着目して思考	- うちん、衣坑りる場面を設定りる。よ - た、タブレットを活用して意見を交換し	の興味・関心を高め、意見を発し
	支化、相互の関連性に有目して応考 し、表現する力が不十分である。	たり、作成物を相互評価したりする	
	し、衣坑りる刀が个十万である。		
		等、社会的事象を多面的・多角的に捉	いる。また、授業中の発表や作
		える活動を増やす。	成物の作成時に、根拠を明示
			することを繰り返し指導して
		ヘコー ハッナナ マボザナーファレア	いる。
	○授業評価の「わかりやすい」という項	〇スライドを使って授業をすることで	〇スライドなどを活用し、授業
	目が、どの学年も肯定的な意見が8	生徒の意欲が増しているので、積極的	を展開している。また、生成
	5%を上回り高い評価となっている。し	にスライドやパワーポイント、デジタル	AI 等用いて、個別最適な授業
	かし、課題として、「家庭学習に意欲的	教科書等を利用して授業を作ってい	を行っている。
	に取り組んでいる」という項目が、学年	く。発展クラスで応用問題を取り扱う	
	によって差がある。	際には、より細かく丁寧に指導する。	
		また、足りない部分は生成 AI 等を用	
		いて問題を生成して補助し、個別最適	
34F		な授業を行う。	
数			0 ++ ++ + = = = -1 Fe 1 + F 5 + 1
学	○授業評価の「タブレット等を活用した	○各クラスの学習状況に合わせ、授業	○基礎クラスでは、取り扱う内
	共同学習」の項目の肯定的評価が低	進度を調節する。また、問題演習の時	容を精査し、学習ペースを調
	U,°	間を適宜確保し、繰り返し問題を解い	整することで基礎基本の定着
		ていく。発展クラスは応用的な問題を	を図っている。発展クラスで
		プリント学習で行うことで、応用力を	は、発展的な内容を別途取り
		つけ、進度も調節する。	扱い、応用力の取得ができる
			よう指導している。今後とも
		○生徒の実態に応じて柔軟に授業改	基礎、応用問わず、引き続き
		善を行う。	反復させながら必要な力を身
			に付けさせていく。
	○理科に興味・関心をもつ生徒は多い	○観察・実験に日常生活に関する身近	〇デジタル教材や ICT 機器を
	が、自然の事象・現象についての基礎	な学習材を取り入れ、体験的な学習を	積極的に取り入れ、生徒の興
	的な概念や原理・法則を理解し、それを	中心とした指導を行う。	味関心を高めさせるととも
理	基に思考・判断を行い、科学的な視点		に、観察・実験を軸としながら
科	で自然の事象・現象を捉える経験が不		授業展開を進め思考力を育ん
151	足している。		でいる。
i			1

	05/19/46/10 5 - 19 5 1 5 - 11 5	0 FD	
	○科学的な視点で捉え、自らの考えを表現する力が不十分であり、表現力の育成を含めて指導の工夫が必要である。	〇観察・実験等の体験から導き出される結果を表やグラフ等を用いてレポートにまとめ、小グループ内での発表の機会を設定するなど、自然の事物・現象を科学的に捉え、思考力・判断力、表現力の育成を図る。	
音楽	○表現活動において、曲想に応じた表現を苦手とする生徒が多い。表現するために必要な強弱、リズムなどの音楽を形づくっている要素の理解が十分ではない。	○強弱、リズムなどの音楽を形づくっている要素を知識・技能の両面から理解するため、プリント学習と並行して楽譜を読み取り、表現し合う活動を取り入れる。	○自身の演奏を聴くことやお 互いの演奏を評価しあうこと で、課題把握をし、より良い表 現方法を考え、表現力の向上 を図る。
	○鑑賞活動において、音楽を形づくっている要素を聞き取ったり感じ取ったりして、根拠を基に批評することを苦手とする生徒が多い。	○根拠のある具体的な批評文を記述するために、聞き取ったり感じ取ったりしたことを全体で共有する時間をとるなど、音楽を批評する力を高めていく。	○模範的な鑑賞レポートを全体で共有し、批評する能力を 高めていく。
美術	○自分の制作活動を始めるとアイデアがスムーズに出てこない傾向が強い。	○美術ジャンルに入る様々な芸術作品 を校内に掲示し、なるべく多くの芸術 作品を鑑賞させ、アイデアを豊富に蓄 えさせる。	○校舎内に生徒及び芸術作品 を展示し、ICT 機器の活用に よる鑑賞を通し、興味関心の 幅を広げるよう試みている。
	〇固定観念にとらわれ、目の前にある ものをニュートラルな視点で見ること ができない生徒が多い。	○知識にとらえず素直な心で物がみられるよう課題を工夫する。	○物の見方への意識に変化が 見られ写実的なデッサンがで きるようになりつつある。
	〇制作活動において問題が生じたとき、どうしたら良いかと自分の力で試行錯誤せず、すぐに答えを聞く傾向が強い。また、自分の作品制作における判断や決定を人に委ねる傾向も見られる。	○生徒一人一人が自信をもって制作できるよう、制作手順の説明をよりわかりやすいものにし、制作時には、机間指導での適切な声かけを心掛け、生徒の声に耳を傾け、一人一人の活動と作品を尊重する機会を増やしていく。	〇毎時、美術クイズなどを盛り 込み、楽しみながら美術に対 する興味・関心を高めている。
保健体	○積極的に運動に親しもうとする生徒が多いが、苦手意識が強く取り組みが 消極的な生徒が一定数存在する。どの 単元でも、運動の楽しさを味わわせ、 主体的に取り組むための指導・支援が 必要である。	○運動の楽しさを生徒自身が見つけていくような指導の工夫を行う。ルールや教具を工夫し、取り組み易くすることに加え、タブレット端末等を活用して、生徒自身がその種目の歴史や特性を調べるなど、運動への興味・関心を高め、主体的な取組へ繋がる指導を行う。	○体育委員を中心に、生徒が 主体的に授業づくりに関わる 場面を設定し、全体の主体性 を高める工夫をしている。ペ ア学習やグループ学習を活用 し、積極的に考えたり、意見を 伝えたりする場を設けてい る。
育	○運動、健康に関する知識・技能を活用することが不十分である。身に付けた知識を基に、自分の課題解決策を考えたり、取り組み方を工夫したりできる生徒が少ない。	○グループ学習やペア学習を取り入れ、生徒同士で課題提示やアドバイスができるよう工夫する。さらに、それを他者に伝える機会を設定し、自分の考えを整理したり、共有したりできるよう指導を工夫する。	
技術家庭	〇既習事項や生活の中の課題を見つけることはできるが、それを解決するための力に繋げることが課題である。	〇小学校図画工作科および家庭科からの既習事項の理解度を把握し、どのような力が求められるか、より具体的に例示していく。	○多くの生徒は主体的に活動 をしている。今後、自らで課題 を設定し、取り組める環境を 整える。
	○適切に課題解決学習を行うために、 課題を設定できる生徒と、できない生 徒の二極化が進んでいる様子が見られ る。	○スモールステップによる課題を通して思考力・判断力を高め、多くの生徒が自ら課題を設定し、取り組める環境を整える。	

○積極的に会話をする生徒が増えている一方で、片言になる、自分の意見を表現できないという生徒が一定数いる。また即興で読むこと、話すことが苦ずで、事前に準備した文章などはできるが、周到に用意しないとできない生まれば多い。

外国語

○英語に関する、背景や文化の違いなどを理解しようとする生徒が増えている。ただし、自分が興味・関心のないことに関してはあまり積極的に取り組めない生徒が多い。

〇お題に対して、即興的に自分の意見を話す機会を設けたり、人の意見に対して自分の意見を述べたりすることができるように指導を工夫する。その際に生成 AI を用いて会話練習に取り組ませたり、有用な表現を収集・活用させたりする。また音声認識 AI を活用した音読練習を効果的に扱い、自己調整学習を可能にする。

○ICT 機器を用いて、海外のサイトや 文化などを調べたり、外国の文化につ いて聞いたり興味・関心を増やしてい けるように心掛けて指導する。

生徒が興味・関心をもって授業に取り 組めるように授業の導入部分につい て工夫をする。 ○自分の意見をもち、相手に どのように伝えることができ るのかを繰り返し、トレーニン グすることで即興性について 改善傾向ではある。

○ICT機器で身近に海外を感じられるようになり、インターネットサイトなどを通じて興味・関心の幅を広げることができる。